

みやぎ生協福祉活動助成金事業活動（令和5年度分）実績報告書

令和6年 2月22日現在

事業名	七北田宿の開宿400年記念イベント「シニア・七北田宿 まちなか健康ウォーキング」と講演会
団体名	七北田宿研究会（旧「郷土史サークル いずみのふるさと」）

健康まちづくり活動助成事業

項目	事業の説明
目的	七北田宿の開宿400年記念イベント「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」と講演会 何のために行ったのか ●「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」カリキュラム(案)シニア世代が、コロナ禍の中でお家の中で閉じこもることなく、外に出て「まちなかウォーキング」を楽しむ事。その際、自分たちの住む七北田・市名坂の地域の郷土史を学び、「宿場町七北田」の開宿400年の歴史の流れを頭に描きながら「まち歩き」を体験してみましょう。 ●歴史を学び「脳トレーニング」、足腰を鍛えて「まちなかウォーキング」で、元気に長生き「健康寿命」を延ばしましょう。 (1) 郷土誌「いずみのふるさと」を学ぶ活動。七北田宿の存在を「お散歩手帖」というコンパクトな冊子1万部を無料配布し、泉区民に幅広く知らせます。奥州街道の北へ、1番目の宿場が七北田宿です。「七北田宿」の痕跡を、お散歩して発見し「七北田の健康まち歩き」を促進します。 (2) 現在の七北田、市名坂で七北田宿に関係する商店を訪問する活動。「七北田宿」にまつわる旧家を訪問し、「七北田宿」を支えた政宗の時代からの「宿場の業務」に関する足跡を記録します。 (3) 七北田宿が開設されてから400年を七北田・市名坂の地域振興とまちづくりに貢献します。「七北田宿の開宿400年」を記念するイベントを「泉中央市民センター」など七北田・市名坂の地域住民、商店会の人々、泉区まちづくり推進課、仙台市教育委員会など行政職員、教職員の方々と共に協働運営できる方向性を作り出していきます。 (4) 「健康まちなか散歩」を促進し、郷土史を学ぶという文化的活動を深め、メタボ予防と地域の人々のコミュニケーションを促進し、郷土を愛する気持ちを泉区民により深く刻み込みます。仙台市街地で近年、参加者が増え仙台市民の注目を引いている「各区のマップ」に付加していきます。 (5) 泉区内の小学校、中学校の子どもたちに郷土史を伝承する活動。「七北田宿 お散歩手帖」を活用して、子どもたちの学びに「郷土史」を取り入れて、「仙台市学校支援地域本部」と連携して、地域の力を多角的に発揮します。史跡を示す「解説表記看板」の設置運動をすすめます。 郷土史サークル「いずみのふるさと」は、2016年5月以来、約7年にわたって活動をすすめ、2021年に会の名称を「七北田宿研究会」へと改称いたしました。2018年は元和4年（1618）から丁度400年にあたり、お隣の富谷宿開設（内ヶ崎織部検断指名）と七北田宿開設の年代がおおよそ重なり合い、2000年には富谷宿開宿400年記念イベントが開催されるなど、「とうほく街道会議」会長宮原育子宮城学院女子大学教授、平川新教授などの講演会が行われ、奥州街道整備400年の歴史の画期を迎えています。 2017年以来、6回にわたって「郷土史サークル いずみのふるさと」講座 生きがい元気講座を開催してきました。第4回2020年11月23日（月・祝）午前10:00～12:00「七北田宿400年記念 七北田お散歩手帖（MAP）普及イベント・・・七北田宿・富谷宿・吉岡宿～3宿サミット」講演会開催 後援：郡和子仙台市長、佐々木洋仙台市教育委員会教育長、若生裕俊富谷市長、浅野元大和町長、河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局 ●講師：清水勇希氏富谷市教育委員会学芸員・富谷市民俗ギャラリー館長、三浦武彦大和町郷土史研究家、斉藤吉人郷土史サークルいずみのふるさと、森田眞理 場所：泉区中央市民センター 第1会議室。参加者40名（会場定員80名を半数制限）。河北新報2020年12月10日紙面報道記事掲載。 第5回2021年11月23日（火・祝）午前10:00～12:00「七北田宿400年記念 七北田お散歩手帖（MAP）普及イベント・・・「七北田宿の開宿400年と奥州街道」講演会開催。●講師：とうほく街道会議会長宮原育子氏（宮城学院女子大学教授） 後援：郡和子仙台市長、佐々木洋仙台市教育委員会教育長、鈴木昭泉区長、場所：イズミティ21展示室。参加者104名 河北新報2021年11月8日「志民の輪」紙面報道記事掲載。行政関係者の参加20名（泉区まちづくり推進課、若生裕俊富谷市長富谷市企画政策課、大和町商工観光課より）

2021年度は七北田お散歩ガイド～七北田宿場めぐり～七北田宿ガイドボランティア～生きがい元氣講座」養成講座実施事業を実施しました。●講師：小林真勝氏（七北田探検隊会長）小野隆氏（小野文具社長）。島貫裕氏（仙台郷土会）久保田毅氏（浄満寺住職）藤原邦男氏（二柱神社宮司）斉藤吉人氏（七北田宿研究会）浅井陟氏（前泉中央町内会長）森田眞理（七北田宿研究会）

2022年度は七北田お散歩ガイド～七北田宿場めぐり～七北田宿ガイドボランティア～生きがい元氣講座」実践教室実施事業を実施しました。●講師：小林真勝氏（七北田探検隊会長）小野隆氏（小野文具社長）。島貫裕氏（仙台郷土会）久保田毅氏（浄満寺住職）藤原邦男氏（二柱神社宮司）斉藤吉人氏（七北田宿研究会）浅井陟氏（前泉中央町内会長）森田眞理（七北田宿研究会）

第6回2022年11月23日（水・祝）午後1：30～4：00「七北田宿研究会（旧、郷土史サークルいずみのふるさと）」講座 生きがい元氣講座）七北田宿の開宿400年記念「七北田お散歩手帖（MAP）」普及イベント●講演「七北田宿と七北田地域の歴史」●講師：宮城教育大学院教育学科堀田幸義教授 ●ご来賓：みやぎ街道交流会山屋敏英事務局長、郷土史研究家小林真勝氏、仙台郷土史研究会島貫裕氏 ●後援：仙台市長・仙台市泉区長・泉区まちづくり推進課・仙台市教育委員会福田洋之教育長・河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局 ●場所：泉区中央市民センター1階ホール（参加55名）資料代300円 ●協賛：シニア・ワーカーズコープ仙台「百歳塾」

（6）「2023年4月3日七北田宿の開宿400年記念行事」の準備を進めます。

「元和年間（1615～1624年）に本七北田からいまの七北田宿に駅を移した。この七北田宿の成り立ちは伝承も含むが、大筋は間違いのないであろう。」（「仙台市史通史3近世1」p310）。風土記御用書出には「七北田村と稱候由申傳候元和年中本七北田より當所江驛場被相廻候事」（「宮城県史24風土記」p266（安永3年1774年7月七北田村肝入仲四郎）に記されています。元和9年（1623）4月3日の石母田家文書に毎月3・8の付く日に「六斎市」の開設を許可することが記されています。（第23回市史講座。仙台市博物館市史編纂室倉橋真紀氏）

政宗の奥州街道の整備の道すじを、400年前に遡って検証し、宿場とは何か、その役割や組織の構成、政宗が指揮した奥州街道の整備計画と「七北田宿」の位置づけや発展の過程などを学び、考え、想像して、次の世代に語り継いで行きたいと考えています。

これらの活動を、七北田、市名坂に居住する人びと、仙台市民、ひいては宮城、全国の郷土史に関心のある人々に伝えていくことによって、「2023年開宿400年」を地域全体での祝賀行事に高めていきたいと考えています。「七北田お散歩手帖（MAP）」配布と普及活動、「七北田宿の開宿400年～七北田宿ガイドボランティア町歩き実践教室」で出会った方々とともにこの目的を達成するための担い手を創り出すことにつながります。

伊達政宗の奥州街道の整備が1616年吉岡宿、1618年富谷宿に続いて1623年七北田宿の開宿によって完成を迎えたという「七北田宿の価値」を再確認し、400年を記念して検断の役割を担った沼田家、嶺岸家などのご家系を顕彰し「地域巡り」「まち歩き」を地域の人々と共有して次の世代に語り継ぐことを目的として、七北田宿の開宿400年記念イベント「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」と講演会を開催します。

事業内容
手 段

目的達成のためにいつ、どこで誰が、何を、どのように行ったか（目的達成のための手法）

「七北田宿ガイドボランティア町歩き実践教室」スケジュール

1623年（元和9年）4月3日に七北田宿が開設され、本年度が丁度400年を迎えます。これを記念して奥州街道の起点芭蕉の辻から北へ一番目の宿場七北田宿で「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」と講演会を開催しました。

・2023年2月8日 募集開始（定員15名、参加費無料）。第1回講座の準備会議①。

・3月8日第1回講座の準備会議②

① 4月2日（日）七北田宿の開宿400年記念講演会「七北田宿と奥州街道の歴史」（仮題）

② 4月3日（月）七北田宿の開宿400年記念「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」（1）

（第1回まち歩き教室）歴史を学び「脳トレーニング」、足腰を鍛えて「まちなかウォーキング」

テーマ：テキスト郷土誌「いずみのふるさと」「お散歩手帖」を配布。七北田刑場・石留神社・善正寺・二柱神社。実相寺・浄満寺・修林壇・佐藤屋敷・軽便鉄道跡。講師：斉藤吉人氏、浅井陟氏、森田眞理・5月10日第2回教室の準備会議②

③5月17日（水）「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」（2）（第2回まち歩き教室）テ

マ：七北田刑場・石留神社・善正寺・二柱神社。講師：斉藤吉人氏、浅井陟氏、森田眞理・6月14日第3回教室の準備会議①。・7月12日第3回教室の準備会議②。

7月19日（水）「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」（3）（第3回まち歩き教室）（テ

マ：実相寺・浄満寺・修林壇・佐藤屋敷・軽便鉄道跡。講師：斉藤吉人氏、浅井陟氏、森田眞理・8月9日第4回教室の準備会議①・9月13日第4回教室の準備会議②

⑤9月20日（水）「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」（4）（第4回まち歩き教室）曹洞宗龍門山洞雲寺千田幹雄住職。・10月11日第5回講座の準備会議①

・10月15日10:00～12:00「泉区中央市民センターまつり」参加。軽便鉄道七北田駅の開業100年「児玉泰隆『仙台鐵道』を描く～懐しの軽便鉄道36景」＜七北田宿の開宿400年・七北田小学校の開校150年・軽便鉄道七北田駅の開業100年記念トークセッション＞「郷土史寺子屋～おらほのまちの温故知新～」参加形態（展示、お話し～トークセッション）内容：今年は、七北田宿の開宿400年と、七北田小学校の開校150年と、軽便鉄道七北田駅の開業100年とが同一年度に記念される「奇跡」の1年。これら「3つの奇跡」を知らない地域の人々に告知し、見聞きしていただき、これからの10年先～50年先を見据えた「まちづくり」を共に考える「お話し～トークセッション」。みんなで報告し合い、交流し合い、検討し合い、つながり合い、これからの「まちづくり」を共に考える。テーマ①：いずみの郷土史、文化、芸術の伝承について。テーマ②：泉区内の小学校中学校の子どもたちに郷土史を伝承する活動について。

・11月1日第5回講座の準備会議②。

⑥11月23日（祝・木）第7回「七北田宿研究会（旧、郷土史サークル いずみのふるさと）講座生きがい元気講座＜七北田宿開宿・奥州街道整備400周年記念イベント＞軽便鉄道七北田駅の開業

100年「児玉泰隆『仙台鐵道』を描く～懐しの軽便鉄道36景」●講演画像児玉泰隆氏●後援：仙

台市長・仙台市泉区長・仙台市教育委員会・河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局

●場所：泉区中央市民センター●主催：七北田宿研究会（旧、郷土史サークルいずみのふるさと）

●協賛：シニア・ワーカーズコープ仙台 生きがい元気講座「百歳塾」

・12月6日第5回講座の準備会議②。

⑦12月13日（水）「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」（5）修了式最終回修了式

（第5回教室 座学）

●「七北田宿ガイドボランティアのテキスト作成」デザイン制作者との連携。株式会社 よごと企画 沼田佐和子代表取締役・コピーライター（2月以降）

事業の収支内容、前年度の実施した場合は（ ）内にも記入【2024年2月22日現在】

(A) 令和5年度事業費 100,000円 (令和5年度)

【2024年2月22日現在】

助成金 100,000円

総収入 100,000円

助成金事業支出 171,630円 助成金収支決算額 ▲71,630円 (借入金)

個別借入金 71,630円 (協賛団体より借入 71,630円)

総支出 171,630円

預金残高 902円 (仙台銀行将監支店普通預金2024年2月22日現在)

財
源
経
費

【助成金事業支出内訳】 171,630円 (A)

講師謝礼20,000円 テキスト代15,000円

会議の開催・会場使用料11,440円 備品費7,986円 印刷費4,177円

定例会講演会準備・調査活動交通費17,290円 コピー代53,767円

用紙代9,314円 通信費郵送料7,864円 保険・その他24,792円

(B) (A) の内、みやぎ生協からの助成金額 100,000円 (B) (令和5年度)

(C) 事業費に占める (B) の割合 $(B) \div (A) \times 100 = 58.3\%$

(A) - (B) = 71,630円

(D) シニア・ワーカーズコープ仙台より 借入金 71,630円 (D)
(追加寄付金1口5,000×14口を依頼中)

(B) + (D) = 171,630円

事業実施により何がどうなったか（成果）。目的はどの程度達成したか。

●「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」カリキュラム(案)シニア世代が、コロナ禍の中でお家の中で閉じこもることなく、外に出て「まちなかウォーキング」を楽しむ事。その際、自分たちの住む七北田・市名坂の地域の郷土史を学び、「宿場町七北田」の開宿400年の歴史の流れを頭に描きながら「まち歩き」を体験してみましよう。●歴史を学び「脳トレーニング」、足腰を鍛えて「まちなかウォーキング」で、元気に長生き「健康寿命」を延ばしましょう。

(1) 郷土史「いずみのふるさと」を学ぶ活動は七北田宿400年を記念する活動です。「いずみのふるさと」総集編「七北田街道を歩く」「七北田の道・七北田宿駅とその変遷」「はっけん七北田」(2003年)に学び「七北田お散歩手帖MAP」を地域に広め、仙台“まち歩き”の「七北田バージョン」をめざして、政宗が指南した「七北田宿の開設400年」の歴史的意義を広める活動を深めることができました。(2) 現在の七北田、市名坂で七北田宿に関係する商店を訪問する活動は、学習とまち歩きとの双方を体験する「健康づくり活動」です。シャッター通りを回避し、時代の商店街の後継者のやる気、元気を取り戻す機運を盛り上げています。奥州街道の北ルート第1番目の宿場「七北田宿」の存在価値を、その後継家系である商店主の方々が一層再認識して、その伝統・文化的価値を高めることに寄与できることをお話することができました。(3) 七北田、市名坂の「お散歩手帖」を普及する活動は、NHKテレビ「ぶらタモリ」など仙台“まち歩き”を契機に仙台市内の中心市街地に留まらず、泉市時代より30年経過した私たちの住む泉、七北田、市名坂でも展開が可能です。「根白石 お散歩手帖」に見習って、「続 み〜つけた」「七北田公園マップ」に引き続く「郷土史にフォーカスした・お散歩」の冊子として普及活動をすすめました。

(4) いずみの郷土史、文化、芸術の振興に寄与する活動は、泉区民の「いずみ」を愛する気持ちを醸成します。七北田村(1615~24元和年間)・泉村(1955昭和30年4月10日根白石村と合併)・泉町(1957昭和32年8月1日)・泉市(1971昭和46年11月1日)・仙台市(1988昭和63年3月1日)・仙台市泉区(1989平成元年4月1日)に至る歴史を「七北田宿開設400年」を焦点にすることで、仙台北下と直結する「私たちの郷土いずみ」を愛する文化につなげる契機となりました。10月16日「泉区中央市民センターまつり」参加。沼田良夫氏：沼田家元和9年4月19日古文書が公開され新聞取材を受けました。今野進氏：軽便鉄道山の寺駅写真贈呈。児玉泰隆氏：軽便鉄道36景画集公開。昨年1年間の七北田宿研究会の活動と市民センターまつりの結果は、河北新報10月17日、30日、11月24日朝刊に掲載され、ご参加の皆さんには好評で関心の高さと本年の「七北田宿の開宿400年」に向けた多大な成果を得ることができ、次年度の「七北田宿開設401年記念」イベントへの土台づくりとなりました。(5) 七北田小、七北田中、市名坂小、東北学院榴ヶ岡高等学校の生徒たちに郷土史を伝承する活動は、七北田小学校の開校150年記念のまとめ、石川智之七北田小学校長先生からの記念行事報告を受けました。「泉ならではの地元学」を学ぶ楽しさ、意義深さを再認識し、七北田小学校との連携活動をすすめています。「本七北田」から「七北田宿」への奥州街道整備の大転換を指示した政宗の元和年間(1615~1624年)の藩政施策の「道」「駅」「宿」「町」の構築や、暴れ川とも言われた「七北田川(冠川)」の「川越え」と「橋」渡しの考察。特に「軽便鉄道の軌道跡」をお散歩中に歩いてみて「道の駅の歴史」を400年の時空を越えて、歴史の流れを肌身で感じる良い機会です。「歴女」「歴史チルドレン」の登場が期待でき、行政、教育委員会、各学校評議会、町内会、地域住民の方々へ提案できました。(6) これら「道」「宿」「まち」に託した政宗の時代の人々のくらし・生業という営み「七北田宿の400年の道のり」を「七北田お散歩手帖(MAP)」(2020年3月16日に1万部発行)を約9000部、七北田小、市名坂小、七北田中、東北学院榴ヶ岡高校、地域の商業者団体へ配布を継続して実施しました。河北新報の「七北田お散歩手帖(MAP)」発行の記事掲載により、沼田家のご子孫の沼田良夫さん庄子泰子さん沼田守男さんから電話お問い合わせを受け、沼田住子さんの調査によって沼田重左衛門さんを祖とする家系図が作成され、カナダに移住した沼田龍次郎さんとの系譜も明らかとなり、検断・肝煎を務めた400年に亘る沼田家の家系を受け継いだ方々の現在の経緯が判明し、河北新報記事が導き出した画期的発見となりました。(7) 2023年11月23日(木・祝)午後10:00~12:00 2017年以来の第7回「七北田宿研究会(旧、郷土史サークル いずみのふるさと)講座 生きがい元気講座<七北田宿開宿・奥州街道整備400周年記念イベント>軽便鉄道七北田駅の開業100年「児玉泰隆『仙台鐵道』を描く〜懐しの軽便鉄道36景」」講演画像提供：児玉泰隆氏●後援：仙台市長・仙台市泉区長・泉区まちづくり推進課・仙台市教育委員会・河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局●場所：泉区中央市民センター第1会議室(参加者38名)●主催：七北田宿研究会(旧、郷土史サークルいずみのふるさと)●協賛：シニア・ワーカーズコープ仙台 生きがい元気講座「百歳塾」

成 果
達成度

2024年4月3日七北田宿の開宿401年記念行事の計画

(1) 郷土史「いずみのふるさと」に学び、七北田宿401年を記念する活動。市バス車庫、消防署、奥羽自動車学校の道路に「一里塚」記念碑の設置、善正寺付近「南木戸」、丁切根に「北木戸」、軽便鉄道「七北田駅」(開業101年)などの表記活動の可能性を追究します。

(2) 現在の七北田、市名坂で七北田宿に関係する商店を訪問する活動。「七北田お散歩手帖」を配布する中で、再度訪問活動を通じて「我が町の七北田宿」の存在を広めます。

(3) 七北田、市名坂の「お散歩手帖」を「まちづくり」に活用する活動。仙台市内の中心市街地で盛んになった“仙台まち歩き”活動を、私たちの住む泉、七北田、市名坂でも展開ができるように、商店会のみなさんや泉区まちづくり推進課の方々と交流します。

(4) いずみの郷土史、文化、芸術の振興に寄与する活動。浄満寺で毎月第4土曜日に開催されている勉強会に参加されている郷土史研究の方々との交流をすすめます。「七北田お散歩ガイド」(仮称)のプログラム作りを定例会で積み重ねます。

(5) 泉区内の小学校、中学校、高等学校の子どもたち生徒たちに郷土史を伝承する活動。「お散歩手帖」を各学校へお届けして「地元学」を学ぶ楽しさ、意義深さを実感してもらえるように先生方に紹介していきます。「社会学級」などへの出前講座を準備します。

(6) 第7回2024年11月23日(土・祝)13:30~16:30「七北田宿401年記念 七北田お散歩手帖(MAP)普及イベント(予定)<七北田宿開宿・奥州街道整備401年記念イベント「七北田宿・富谷宿・吉岡宿〜3宿サミットVOL2. 郷土史トークセッション」>「七北田宿の開宿400年と奥州街道」講演会開催。●講師:とうほく街道会議会長宮原育子氏(宮城学院女子大学教授)秋山沙織氏東北歴史博物館企画室 場所:泉区中央市民センター 会議室(定員80名)資料代300円。●2024年4月3日(水)13:30~16:30(予定)「郷土史サークル いずみのふるさと」講座 生きがい元気講座「仙台藩初期の街道整備と七北田宿」講演会開催 後援:仙台市・仙台市教育委員会、仙台市泉区 河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局 ●主催:「郷土史サークル いずみのふるさと」●協賛:シニア・ワーカーズコープ仙台 生きがい元気講座「百歳塾」

●「七北田 お散歩手帖」デザイン制作者との連携。株式会社 よごと企画沼田佐和子代表取締役・コピーライター青葉区本町2-9-5(コア本町ビル月刊カフェラテ)022-290-6780 090-6850-3853●株式会社 高長商店高橋長也代表取締役泉区根白石字町西上24 022-379-2110●泉かむりの里観光協会事務局熊谷純一泉区福岡字藤沢13 022-379-2659 090-4634-1525

七北田宿研究会「七北田宿ガイドボランティアテキスト作成作業

(1)【仙台藩宿場町の肝煎・検断職務と徴税制度について】1、村方役人の職務(1)肝煎(2)検断2、宿場町の租税と諸税3、七北田宿の町立と諸税の減免【奥州街道七北田宿をつくり発展させた先人達】～検断・肝煎家の沼田一族・嶺岸一族について～1、七北田宿はいつできたか?2、宿場町とはどんな町?3、町をつくり、守ったリーダーは?4、七北田宿・七北田村は明治までどのようなようだった?5、実相寺境内は七北田宿の歴史伝承地!【参考1】沼田一族の検断家・肝煎家の家系～安永風土記「七北田村代数有之御百姓書出」による【参考2】嶺岸一族の検断家・肝煎家の家系～安永風土記「市名坂村代数有之御百姓書出」による

(2)<「七北田宿の開宿401年を記念して2024年4月3日を仙台市泉区の大イベントに!>七北田宿の開宿401年記念企画を!2024年11月23日(土・祝)13:30~16:30(第7回「七北田宿研究会(旧、郷土史サークル いずみのふるさと」講座 生きがい元気講座)

●場所:泉区中央市民センター(予定)資料代300円●主催:「七北田宿研究会」●協賛シニア・ワーカーズコープ仙台「生きがい元気講座 百歳塾」

(3)「七北田宿の開宿401年記念イベント〜シニア・七北田まちなか健康ウォーキングと講演会」5月・7月・9月・11月・12月の計画作成。

(4)「七北田宿研究会アーカイブス〜七北田宿のまち歩きテキスト〜」冊子の作成準備。

(5)2024年4月3日「七北田宿の開宿401年記念イベント」の準備。

課題と今後の展望

その他 特記すべき事項があればお書きください

枠外に記載

1. はじめに

急速な少子高齢社会の進行中で、2010年12、806万人をピークに総人口は徐々に減少に転じ、これまで日本社会のけん引役を担っていた団塊の世代の退職により、生産年齢人口の減少による現役世代の急減に伴う人手不足や技術伝承の断絶への懸念が広がっています。こうした負の傾向に歯止めをかけ、深刻な人手不足を回避するための高齢者の継続雇用を進め、次の世代を担う後継者を育成し、働き甲斐のある高齢者の仕事づくりという新しい社会システムの構築が重要なテーマとなっています。

統計数値では世界有数の長寿国日本の平均寿命は、世界第一位84.2歳2016年(女87.1歳①位、男81.1歳②位WHO世界保健統計2018年版)、健康寿命世界第二位74.8歳(女74.21歳、男72.14歳2016年WHO)。100歳以上の高齢者数71,238人2019年。

政府は、人生100年時代を見据え、65歳から70歳までの就業機会の確保をめざす法制度の検討を進めています。厚労省は、65歳までの雇用確保を義務付けた現行の高齢者雇用安定法を改正して、事業主の「努力義務」を盛り込み、さらに「義務化」も視野に作業を進めています。たしかに現行の改正高齢者雇用安定法は、65歳までの希望者全員の継続雇用を企業側に義務を求めましたが、労使の話し合いの仕組みや、個々人の選択肢の適用とそのすすめ方の相談の方法には、まだまだ緒に就いたばかりです。

また、非正規雇用者数が増加(2,120万人。正規3,476万人。非正規雇用者比率37.9%2018年)し、65歳以上の就労者数469万人の内の非正規者数358万人(76.3%)の雇用形態は、賃金や待遇の格差と不安定雇用を反映したリストラや早期退職勧告などにより、旧来の日本型雇用制度の終身雇用や年功序列は様変わりし、今後の「働き方改革」の推進や労働環境の整備や多様な働き方が望まれています。

今後、年金支給年齢が上がり、他方で「マクロスライド」と称して年金額が下がっていく政策動向の中にあって、「70歳定年制」の議論を行う際には、高齢期における労働の有り方の根本を「人間らしい尊厳ある労働」(ILO勧告:ディーセントワーク)「ワークライフバランス」(仕事と生活の調和)が社会制度として確立が必要です。

平成24年度団塊の世代の意識に関する調査(内閣府政策統括室)「あなたは、現在、どのような点を重視して生活していますか。」では、現在、生活上で重視していることをみると、「仕事・事業をしたい」が最も高く42.5%であり、次いで「趣味や勉強に取り組みたい」21.5%、「家族との交流を大切にしたい」15.2%、「のんびりと過ごしたい」7.7%の順となっています。

シニア世代は、日本社会の大きな比重(65歳以上3,558万人高齢化率28.1%)を占めており、社会に対して多大な影響を与えます。これまで社会の様々な分野の第一線で活躍してきた経験を生かし、今後の超高齢社会を先導する役割と、雇用、就労、社会参加活動での活躍が期待されています。また、高齢期は、人生の完成期と言われています。高齢者の約80%は、元気です。この元気な高齢者が、内にこもることなく外に出て、自分らしい働き方を発揮する「居場所」と「出番」の出会いづくりと「仕事おこし」が、いま、求められています。

シルバー人材センターや老人クラブなど、従来の活動組織もありますが、シニア・ワーカーズコープは、「出資・労働・経営」を活動の柱にしています。新しい協同の組織づくりに取り組み、これまでとは違った、自主・創造・参加型の市民活動団体として、NPO法人をめざして多彩な独自プログラムの開発を、宮城県高齢者生活協同組合、NPOワーカーズコープと共に、全国連帯の非営利・協同組織をめざします。

2. 百歳塾「生きがい元気講座」

百歳塾「生きがい元気講座」を月1回開催します。仕事と元気づくりを両立させる取り組みです。介護予防、生きがいづくりに取り組みます。交流サロンにもつなげていけるよう会員拡大に結び付けます。

シニア世代にとって、健康、福祉、生きがい、就労、仲間づくり、閉じこもり、孤独死、エンディングノートへの関心は高く、市民講座やワークショップをとってお互いの交流を深めます。

自分たちの力でその解決を協同で考え、コミュニティの再生に取り組みます。毎月定例化することで、交流サロンの開設につなげていきます。この百歳塾を通して、シニア世代の生きがい活動をNPO市民活動として、他の団体とも交流し、連携しながら講座プログラムの開発につなげます。

こうした百歳塾「生きがい元気講座」は、自分たちが学んだ内容を、他者にも広める活動を、「語り部活動」としてすすめます。また、独自に「老人学」や「シニア社会学会の研究活動」、すなわち少子高齢・

人口減少時代におけるシニア社会のあるべき仕組みづくりに関し、市民の立場から自由に発言し、政策提言しうる実践的性格の「シニア寺子屋(塾)」へと発展させていきたいと考えます。

さらに、百歳塾、シニア寺子屋塾は、「学習・研究」を「活動」に結ぶ、すなわち学識・研究者と市民団体・産業界・地方自治体などの各界で活動している人びと並びに一般市民・個人が、理論と実践の組合せをとって自由に交流・融合して、新たなエネルギーを創出し、活動するための開かれた「アクティブシニア活動・交流」を年4回くらい開催します。これらを、総合的に運営する「アクティブシニア活動・交流事業」に向けて、中長期の計画を策定します。

具体的には、「超高齢社会を生き抜く知恵」(大学名誉教授、町内会長、講師、落語家)

「美味しく食べて、元気に老いる」(女子大学准教授、栄養士)「その人らしく、美しく年を重ねる」(ビューティーセッション研究センター、化粧品会社美肌研究室)「いつでも、いつからでも始められる ICT」(情報環境デザイン研究所)「地域のきずなを強めよう」澤岡詩野(高齢社会研究財団)「海外の高齢者にみるアクティブな生き方」(シンクタンク総合研究所)などを実施している「シニア社会学会」のプログラムを参考に、組み立てます。

3. 生きがい元気講座 「シニア・ワーカーズコープ仙台」講座

- 元気な高齢者がもっと元気に！ 寝たきりにならない、しない！
- 一人ぼっちの高齢者をなくそう！ 支えられる存在から、社会を支える存在へ！
- 年を取っても元気で生き生き暮らすにはどんなことに気をつけたらよいのか。健康は財宝(たから)！
- 「生涯現役」「いつでも青春」をめざして、明るく楽しい超高齢社会を実現するためのノウハウを共有する！

◎生きるのが楽しくなる15の習慣を、みんなで探究する「百歳塾」 6月21日(土)10:00~12:00 仙台市市民活動サポートセンター 研修室2 ○講演:出雲幸五郎さん 参加費 500円「か・き・く・け・こ・で、百歳を生きる方法」・か=感謝・き=興味・く=工夫・け=健康・こ=恋心・好奇心(幸五郎さんのプロフィール) 1931年仙台市荒町生まれ。宮城県立工業高校から東北学院大学英文科卒業。1959年、幸洋堂を創業。荒町商店街振興組合初代理事長。町名改正反対運動、神社境内での「星空コンサート」開催。64歳(平成7年)から「幸五郎新聞」発行。文具店の前に掲げる「キャッチコピー」は時々マスコミで報道される。「まちづくり運動」に没頭する。

「株式会社 幸洋堂」代表取締役 「荒町こころの学校」校長 「荒町 養賢堂」主宰。著書『熱血こうごろう荒町風雲録』2005年6月10日無名舎出版『「こうごろう新聞」仙臺荒町奮戦記』2012年1月15日 仙台市若林区荒町130 266-3331 「元気なまちおこし・まちづくり」

「人生80年時代」と言われたのは、つい先頃のことですが、今や「人生100年時代」に近付きつつあります。第二の人生を終え、第三の人生にチャレンジすることも不可能ではありません。年をとっても、元気で生き生き暮らすには、どんなことに気をつけたらよいのか。「生涯現役」「いつでも青春」をめざして、明るく楽しい超高齢社会を実現するためのノウハウを、教わり・教え合い、私たち自身で開発したい。生きるのが楽しくなる15の習慣をみんなで探究する「百歳塾」をすすめます。

シニア・ワーカーズコープ仙台 (シニア・ワーカーズ) 生きがい元気講座「百歳塾」〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンター TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042 「レターケース103」

4. シニア・ワーカーズコープ仙台の運動

全国で展開されているワーカーズコープ事業活動の高齢者版、地元版です。NPOワーカーズコープに続く、NPO法人をめざしてゼロからのスタートを地元・地域のシニアが独自に起業します。

シニア・ワーカーズコープ仙台の設立によって、協同組合の原則を基本に、NPO活動の少人数グループ活動による意思決定を柔軟に駆使して、既存の協同組合組織や他のNPO団体との協同活動を推進し、現代社会における少子高齢人口減少社会の新しいニーズを発掘することができます。

シニア世代が、年齢の差や障がいのあるなしに関係なく、小集団で、いつでも、どこでも、誰もが、身近な地域でワーカーズコープを設立し、運営し、地域で必要とされる課題に、挑戦できるノウハウの開発につなげることができます。ワーカーズコープの理念は以下の2つの考え方を提案しています。

○ 働くことのもうひとつの意味は仲間としての協力・連帯です

高齢期の生活を豊かにするための就業機会の獲得の意味は、報酬を得ることが第一の目的となりがちですが、もう一つの目的として、社会での孤立化を防ぐために皆と一緒に働くことも大切です。

ワーカーズコープという組織に所属し、皆と事業や仕事、運動について語り合い、協力すること「協同労働の協同組合」の考え方が重要です。社会の中で活動をしていると、必ず課題や問題にぶつかります。そんなときに一人で悩まず、同じような立場で悩みを共有し、ヒントをくれる仲間がいることは、とても心強いものです。あるいは、その道の専門家に教えを乞うことも可能となります。そういった幅の広い協力と連帯の協同組合らしい人間関係の構築もめざしていきます。

○ 希望する人が働ける組織

長寿社会である今日、健康寿命も同時に伸びてきています。2012年の厚生労働省の統計では、全国平均は男性70.42歳、女性73.62歳でした。2018年WHO世界保健統計では、男性81.1歳、女性87.1歳です。健康寿命は、男性72.1歳、女性74.2歳(2016年WHO)

健康でいきいきと暮らすためには、働きたいという意欲がある人が自らの希望にしたがって就労できる環境が必要です。まだまだ、元気で自分の能力をいかしながら働く場の確保は、今日の高齢者のニーズの中で最優先のテーマです。市民活動組織のさまざまな事業の中で、能力に応じた働きが保障され、働きに応じた報酬が得られ、豊かな暮らしと「年金プラスアルファ」(約5万円)の収入の考え方を実現していく展望をもちたいものです。

介護保険や福祉事業などは、働く側の職員となりサービスに向き合った人が多いと思います。現場のケアマネやホームヘルパー、デイサービス等の業務に関わって、市民が起業するという意識を持った人々は少ないと思われます。実際には入り口として既存の組織での就業機会を得てから、自らの企業を志す場面もあるかとは思いますが。過去に取った職業経験を活かしてみる試みや、各人のニーズや目的、手段の多様性は様々で、同じ数だけの多くの希望に応えられる受け皿作りが求められます。

そのため、コミュニティ・ビジネス(地域コミュニティで眠っていた労働力、原材料、ノウハウ、技術などの資源を生かし、地域住民が主体となって自発的に地域の問題に取り組み、やがてビジネスとして成功させていく、コミュニティの元気づくりを目的とした事業活動)という市民の仕事づくりとしての入り口は、介護保険制度によるサービスだけでなく、サロンであったり、ボランティアであったり、気軽に相談できる関係であったり、さまざまな活動を通じて「生きがい・やりがい」が得られるように、努めていきたいと思います。その中で、自分や家族が介護が必要な状況になっても、介護サービスを利用しながら、また組合員サービスを利用しながら、引き続き「生きがい・やりがい」を持って、働いて暮らせるシステムづくりをめざしています。

5. 生活支援事業「お一人暮らし・高齢者世帯への暮らしの応援隊」便利屋事業

シニア・ワーカーズコープは、宮城県高齢者生活協同組合の組合員と共に、草取り、庭木の剪定、ハウスクリーニングなど便利屋事業を独自のNPO法人としてすすめます。生涯現役で仲間と共に協同労働で、いつまでも元気で、自分らしくできる範囲で、楽しく働き続けられる「こんなサービスをやって欲しかった」というシニア・ワーカーズらしい温かみのあるサービス提供を行います。

これまで培ってきた地道な仕事の積み重ねと、誠意をこめてかゆい所の手が届くように利用者さんからのご要望にお応えできるように、助けあいの心が通じ合えると信頼が高まります。一つひとつ小さい所も、見えない部分もおそろかにしないで、辛抱強く仕事の道筋をつけていくと、「よい仕事」に結びつきます。利用者さんにも、働く仲間にも信頼される仕事を全うすること、責任を仲間と分担してその人の主体性を尊重しながら、暮らしを丸ごとサポートし合うことが協同労働ではないかと考えます。

生活支援事業は、「便利屋さん」事業として、取り組まれていくうちに、長年の積み重ねの中で、活動領域が限られたり、担い手の不足を招きがちです。パソコンを使用した情報発信と他団体との情報共有によって、より綿密な仕事おこしを促進させます。

また、従来の手作業から新しい仕事の道具を購入した機械作業を進めることで、作業の効率を上げ、仕事の出来栄を向上させ、利用者さんからのご要望に応えることが可能となります。このことにより、仕事に従事する会員の拡大と、事業基盤を強化できます。

「七北田宿研究会 特別講座」受講者募集

生きがい元気講座

～1623年(元和9年)4月3日～ 七北田宿の開宿400年記念「シニア・七北田宿 まちなか健康ウォーキング」と講演会

みやぎ生協福祉活動助成事業[名義後援]仙台市長・仙台市教育委員会教育長・
河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局(予定)

年間6回開催 この講座は「みやぎ生協福祉活動助成金」で運営されています

修了者「まちなか健康ウォーキング」参加証授与！

- 伊達政宗は、仙台藩の交通政策の一環として奥州街道の「直線化・平地化」整備を行い、七北田宿が元和9年(1623年)4月3日に開かれました。江戸時代の七北田は多くの旅人や荷物が行き交う宿場でした。「七北田宿の開宿400年」を記念して、七北田宿の開宿の経過を絵図や古文書から辿り、往時の七北田宿の姿を「七北田宿まちなか健康ウォーキング」で郷土史を学習しながら、健康づくり・仲間づくりをしましょう。

・・・七北田宿開設400年を記念して、「七北田お散歩手帖(MAP)」を1万部作成いたしました。政宗が整備した奥州街道、宿場町だった七北田宿を400年前に遡って思い起こして七北田宿をガイドしましょう。「宿場は宿駅・驛馬・町場とも呼ばれ、①荷物を継ぐための場所『駅』であり、②宿泊・休憩施設のある場所『宿』であり、③商品を売買する場所『町』であるという複数の重要な役割を担っていました(平成13年2月4日第23回市史講座。仙台市博物館市史編集室)」・・・

4月3日(水)第1回ウォーキング

午前10:00～12:00 (要申込み:先着順定員15名)

第2回5月17日 第3回7月19日 第4回9月20日 (以上まち歩き)

第5回11月23日(座学) 第6回12月13日(修了式) **●参加費無料**

●会場:泉区中央市民センターなど(予定)泉区市名坂東裏53-1

●お申込みは、こちらへ・・・(携帯) 090-2566-4765 森田

主催:「七北田宿研究会」(旧、郷土史サークル いずみのふるさと)

協賛:シニア・ワークスコース仙台(シニア・ワークス) 生きがい元気講座「百歳塾」

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンター「レターケース103」

七北田宿研究会(旧、郷土史サークル いずみのふるさと)講座

生きがい元気講座

七北田宿の開宿400年記念

～「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」特別講座～

大正12年(1923)仙台軌道(仙台鉄道)「七北田駅」開業100周年記念

なつかしい「仙台鉄道に乗ったお話し」

後援:郡和子仙台市長・仙台市泉区長・泉区まちづくり推進課・仙台市教育委員会
福井洋之教育長・河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局(予定)

講師: <裏面もご覧ください!>

仙台鉄道画家 児玉泰隆氏

- 「仙台軌道」別名「軌道っこ」「軽便っこ」開業100周年～通町・八乙女間 6.8 kmの開通～大正11年(1922)10月6日～八乙女・七北田間 0.9 kmの開通～大正12年(1923)4月26日。終点中新田駅までの全線 44.1 kmが開通したのは昭和4年(1929)9月17日。
- 着工の頃は世界的に不況のどん底で、物価の高騰と資金難で大変苦労して出来た鉄道であった。開通当初は物珍しさもあり多くの乗客で賑わった。貨物は仙北方面から燃料の亜炭・薪炭が仙台へと運ばれ、仙台からは雑貨・服飾品などが仙北方面へ運ばれ、徐々に生活需給機関として認識されていった。
- 今年、七北田宿の開宿(1923年4月3日)から400年にあたると同時に、「仙台軽便鉄道」は七北田駅の開業(1923年4月26日)100周年を迎えました。この年代の偶然性、関連性を歴史の流れとともに、七北田地域の発展の道筋として記憶にとどめるために、開催いたします。

2023年11月23日(木・祝)

午前10:00～12:00 (定員80名 先着順) **参加費無料**

場所: 泉区中央市民センター 2階 第1会議室

● 仙台市泉区市名坂東裏53-1 ☎022-372-8101

● 連絡先(携帯) 090-2566-4765 森田

● このイベントは、「みやぎ生協福祉活動」「泉区まちづくり活動」助成金で運営されています。

主催: 「七北田宿研究会(旧、郷土史サークル いずみのふるさと)」

協賛: シニア・ワークスコープ仙台(シニア・ワークス) 生きがい元気講座「百歳塾」

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンター「レターケース103」

七北田宿研究会(旧、郷土史サークル いずみのふるさと)講座

生きがい元気講座

七北田宿の開宿400年記念

「シニア・七北田宿まちなか健康ウォーキング」

「1623年4月3日七北田宿の開宿」祝賀会

後援:郡和子仙台市長・仙台市泉区長・泉区まちづくり推進課・仙台市教育委員会
福井洋之教育長・河北新報社・朝日新聞仙台総局・毎日新聞社仙台支局(予定)

講演:

郷土史研究家 小林眞勝氏・島貫 裕氏

○ 伊達政宗は、仙台藩の交通政策の一環として奥州街道の「直線化・平地化」整備を行い、七北田宿が元和 9年(1623)4月3日に開かれしました。吉岡宿1616年・富谷宿1618年・七北田宿1623年が開宿400年を迎えました。「七北田宿の開宿400年」を記念し七北田宿と奥州街道の発展の歴史を話し合います。
・・・「元和年間(1615～1624年)に本七北田からいまの七北田宿に駅を移した。この七北田宿の成り立ちは伝承も含むが、大筋は間違いないであろう。」「【仙台市史通史3近世1】七北田宿の開設400年を記念して、「七北田お散歩手帖(MAP)」を1万部作成いたしました。政宗が整備した奥州街道、「宿場町だった七北田宿」を400年前に遡って、その価値を学ぶ目的で講演会を開催いたします。宿場は宿駅・驛馬・町場とも呼ばれ、①荷物を継ぐための場所「駅」であり、②宿泊・休憩施設のある場所「宿」であり、③商品を売買する場所「町」であるという複数の重要な役割を担っていました。(平成13年2月4日第23回市史講座。仙台市博物館市史編纂室)・・・

2023年4月2日(日)

午前10:00～12:00 (定員80名 先着順) **参加費無料**

場所: 泉区中央市民センター 2階 第1会議室

● 資料代300円 仙台市泉区市名坂東裏53-1 ☎022-372-8101

● 連絡先(携帯) 090-2566-4765 森田

● このイベントは、「みやぎ生協福祉活動助成金」で運営されています。

主催: 「七北田宿研究会(旧、郷土史サークル いずみのふるさと)」

協賛: シニア・ワークスコープ仙台(シニア・ワークス) 生きがい元気講座「百歳塾」

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3 仙台市市民活動サポートセンター「レターケース103」